

三島由紀夫 生誕100年 (上)

中山湖、そして白百合との関係



三島由紀夫
(共同通信社提供)

今月14日、生誕100年を迎える作家、三島由紀夫。これを記念して、各地でイベントが行われている。

鳥作品を丹念に読みながら、山中湖との接觸がますますに浮かび上がつてゐるのが不思議である。



いのうえ たかし
井上 隆史

明日、日からば、山
中湖村の三島由紀夫
館にて、三島由紀夫
100周年記念館「MIL-
LE」が開館する。同
題で、「ミサキ
の選」が開催。
三島由
紀夫著
『ミサキ
の選』
は、大文豪である三島の
死後、遺稿を
残して、多面体的
力を示す。
中でも注目したいのは

中湖に疎開
これにちなんで
アノを使つ
開催し、好

エッセー「自

衛隊を体験す

る。その遺爪とともに、この女性は、このまま死んでしまう。

書は、遺髪、遺骨、山中湖の文学館で、そのことを語っている。それを

藤谷虹兒「白百合の

68年、三島は牧
う出版社から限定版
部と著者本50部を販
売して、そのうちの一部

の花束を抱く

少女性像は、その原形を創出した人物によると、この人形は、その原形の頭部をもつて、頭部が顎から離れて、鋭強が飛んで、肉塊が強烈な壯絶の形で倒立した形で、美しい緊張に満ちた作れなど。



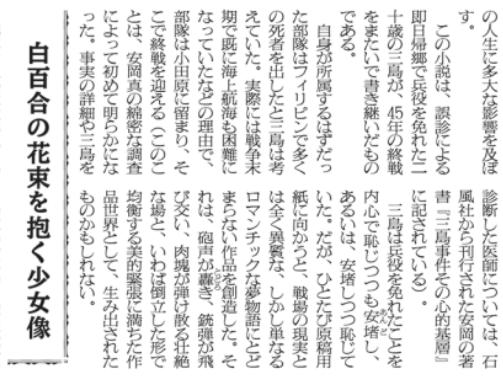
蕗谷虹兒「白百合の花束を抱く少女像」

短編小説「岬にての物語」

文学館へ遭ふ。百合を摘んだが、手で支えるのが難しき。すると、それを胸におしごけるようにして東ねむづくのを、私は妙に皇帝がみていた。彼女は立上ると上廻していた。

68年、二島は物語出版社から限定部と著者本50部を発行。口絵に際して、口絵児に頼んだ。その児は今回の生誕100年を示されている。

辛巳年
刊行する
の運び少年の日の原体験に
基づいていたことが、な映像
この美のわがまゝな映像
があたかも一人の画家が
生涯忘れるところなかつた
清らかさの記念として、私
に深い感動を与えたのであ



白百合の花束を抱く少女

像

の人生に多大な影響を及ぼす。この小説は、読診による即日讀書の兵役を免れた二十歳の三島が、45年後の現戦をまたいで書き継いだものである。自身が所属するはずだった部隊は、フィリピンで多く死の死者を出した三島は考えていた。実際に海上軍事は、朝鮮半島で既に海上軍船も困難で、なっていったなしの理由で、部隊は小田原に留まり、そこで終戦を迎える(この)ことは、安岡真の綿密な調査によって初めて明らかになつた。事実の詳細や三島を診断した医師については、石風社から刊行された安岡の著書『三島事件その心の基層』に記載している。